

ロバート・ブラウニング

5 夜更けの逢瀬 夜明けの別れ

夜更けの逢瀬

I

鉛色の海 暗闇に延びる浜の影
大きく低く浮かぶ山吹色の弦^{ゆみはりづき}月
まどろみを邪魔された小波が
荒々しく輪を描く
私は岩蔭^{へさき}に舳先を押し進め
ぬかるむ砂浜で舟を止める

5

II

生暖かい潮の香り漂う浜辺を一マイル
三つの草原を横切るとやがて農家が見えてくる
窓ガラスを一度だけ叩く 素早くマッチを擦る音
青白いマッチの炎
喜びと不安とで
互いの心臓の鼓動よりも小さな声

10

夜明けの別れ

岬をまわると不意に海が現れた
太陽が山の縁^{へり}から姿を現した
あの人にとっては黄金の一路
わたしにとっては男の勝手

(福山真季・原由子寄稿)